

COMBINED FLEET GIRLS COLLECTION FAN BOOK

おしっここれくしょん 駆逐艦編 貳

PISS-COLLE DESTROYERS II

VOLUME 02 FOR ADULT ONLY

〜重巡洋艦 青葉の独白〜

……んっ、んっ、……あ、あ、ああ……。……またやっつてしまいました。霧島さんの変態性欲を満たすための駆逐艦娘ヌード撮影に付き合わされたのが運の尽き。青葉まで、何処へ出しても恥ずかしい、立派なロリコンになってしまったのです……。パソコンに移した、駆逐艦娘の皆さんのあられもない写真を見ながら、夜毎自分を慰める日々。こんな古鷹さんや加古、衣笠に知られたらどんな目で見られるか……。ううう。でもでも、膨らみかけのおっぱいやつるんとした割れ目、そこからちよろちよろと出る、お、おしっこ。正直たまりません。あ、またムラムラしてきました……。今日だけでもう3回も抜いたのに。でもそろそろ、オカズ増やしたいな……。霧島さんはすっかり、提督と夕雲さんとの3Pにドハマリしていますけど。かくなるうえは、青葉ひとりで新たな撮影の旅に出発です！

「ども、恐縮です、青葉ですう！ 一脱ぎお願いします！」

睦月型三番艦 弥生



下着姿

とりあえず最近来た彼女にお願いしてみました。ムスツとして、スルスルと脱いでくれましたよ。サラシ！
 ラシ巻いてるんです。金剛さんたちみたい。勿論、押し
 ぎえるほどの胸はありませんが。あと、しまぼん、
 ベタですが、やっぱりいいですねえ。

胸部装甲

お姉さんたちよりは控えめなおっぱい、
 乳輪から先が少し尖り気味です。何も
 着けないと擦れて痛そう。

陰部

ぱんつをはいたまま、ずらしてアソコを見せてもらいました。お
 ……ちよつと肉付きのよい大陰唇に切れこむ、上付きの割れ目。恥
 丘には産毛と陰毛のあいだくらい、少し長めの毛がばらばらと
 生えています。最高です。弥生さん、相変わらずの仏頂面ですが、
 ほんのわずか、頬に赤みが差していたのを青葉は見逃しませんでし





生殖器
 まだまだ未成熟な、ピンク色のつるんとした小陰唇です。陰核もほとんど包皮に埋もれていません。膣口はかろうじて小指が入りそうな程度のですが、怖くてまだ何も入れたことがないのだとか。ああ、優しく開発してあげたい。

放尿
 いっそのこと面白いことをやってみよう。というわけで、右足を高く上げて手で抱えてもらい。左手ですこしアソコを開く感じで立ちションしてもすらいました。じよおっ、と斜めに勢いよく飛びだす尿。いいですねえ、シビれますねえ。さすがに、弥生さんもかなり恥ずかしそうです。



自慰
 「望月に……教えてもらったの。おまたをこすると気持ちよくなるって……。3日に1回くらい……してる」
 ほうほう。どんなことを考えながらしてるの？「……その……望月に……触ってもらおう……こととか……ウツヒョー！青葉、撮影が終わって、早速オカズにしちやいました。」

睦月型四番艦

卯月



胸部装束

「おっぱいなんて飾りだぴよん！」と主張する卯月ちゃん。胸はほとんど真の平ら。さすがに朧ちゃんよりは膨らみがあります。……あ、龍驤さんの話はないのであげてください。



陰部

どや！ とばかりにカッコつけるうーちゃん。ただしすっぱだから。もうたまりません。まったく無毛の恥丘は広めで、割れ目がけっこう浅いですね。青葉的にはくつきりした縦筋が好きなんです。可愛いので無問題です。

下着姿

「うーちゃん、ポーズとるぴよん！ 青葉さん、かわいく撮ってね！ いち、あの、はい、チーズ！ ぴよんっ！」
「あ、かわええんじや、く。いやだつて、ホント可愛いんですよ卯月ちゃん！ 溶かして食べちゃいたいくらいです。彼女も弥生さんと同様、サラシと縞パンでした。」

性器

ちいさい。ちいさいのです。卑語がまったたく似合わない。それこそ「ちよんちよん」とでも表現したくなるような、ただのおしっこを出すところ。小陰唇も陰核もまるで目立ちません。ホント……、幼い女の子の性器はかわいいですよ。

放尿

「おしっこが見たいだなんて、ヘンなの！」ケラケラと笑いながら「うーちゃん、座ったまま足を広げて放尿してます。しゃああああ」と勢いよく飛び出したおしっこは、途中から少し斜めに軌道を変えて、見る見る水たまりを作っていました。ああ、もう、青葉、おちんちん生やしたいです。そそり立ったソレにうーちゃんのおしっこかけられながら、思いつき射精したいです。

自慰

「おなにー……って何？」なんとつ、不肖青葉、自慰の手ほどこきをする事になうてしまいました。夜はさつさと寝てしまうので（夜戦できるのかな？）同室の弥生さんのソレには気づかなかつたみたいです。とりあえず、オーソドックスに陰核まわりを刺激するところから……「あれえ……うーちゃん、なんだか……気持ちいいぴよん……」後日、食堂にて「青葉さん！おなにー気持ちよくてやめられないぴよん!!」と大声で言われ、古鷹さんに大目玉を喰らいました。くすん。

睦月型十一番艦 望月

下着姿

「めんどくさいなあ……」と加古みたいになぼやきつつ、水玉模様のパンツ一枚になつてくれました。ビバ・幼児体型。

胸部装甲

逆ばんばかばーん。とでも言うべき、実にもつてなだらかなお胸です。「別に乳で戦ったり輸送したりするわけじゃないからなあ……」

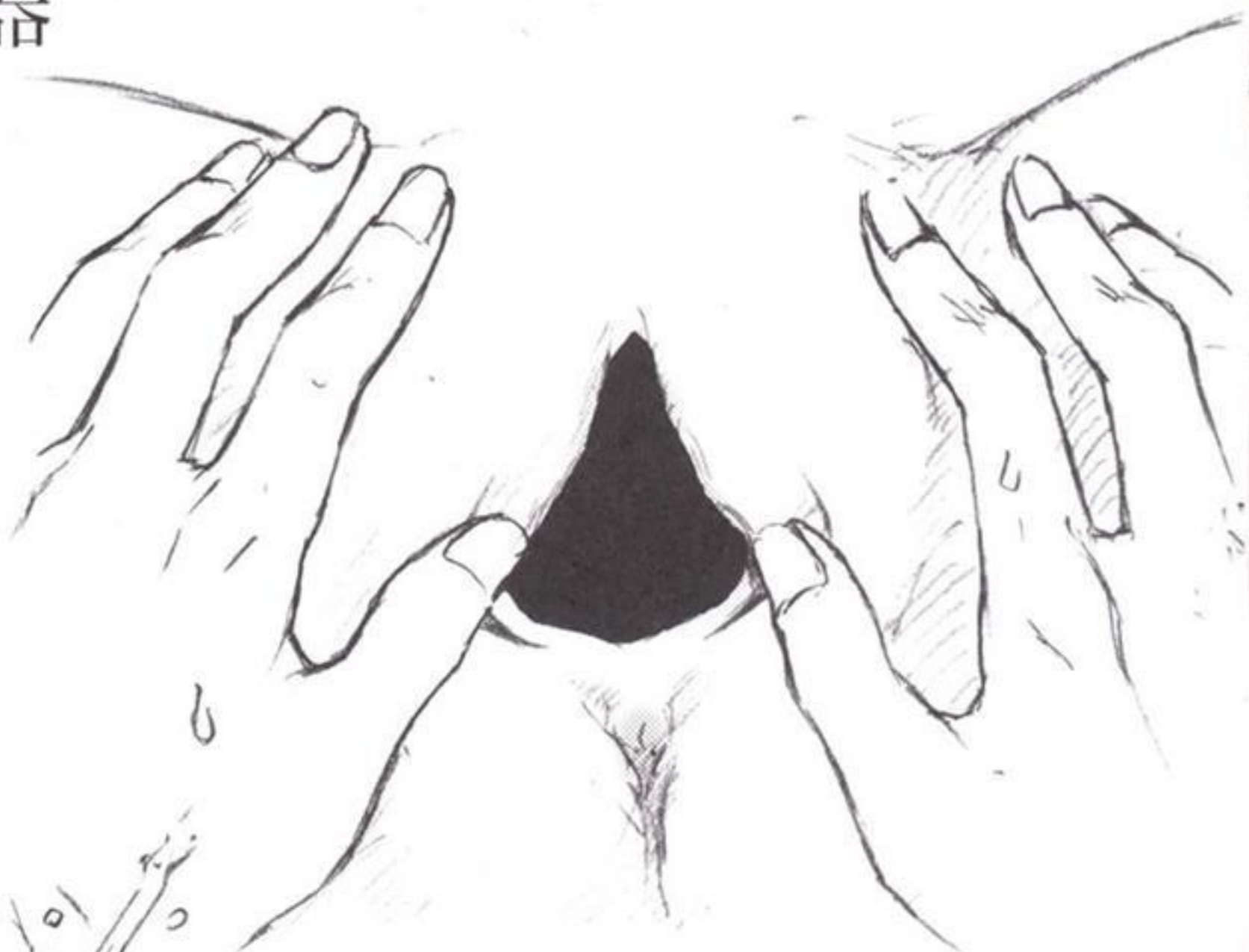
陰部

1本の恥毛も見られない、かわいらしい縦筋を惜しげもなく晒してくれました。「弥生と2人で素っ裸になつて甲羅干ししたときのことを思い出すなあ」な、なんですと!?



性器

「あー、マジダルい……青葉さん、勝手に広げて見ていいよ」「フアッ!?」思わず素っ頓狂な声を上げてしまいました。「い、いいんですかそんな」
「駆逐艦娘を裸に剥いてる時点でいいも悪いもないだろ……。あたしのまんこ見たいんでしょ?」
「は、はい、じゃあ失礼して……」恐る恐る手を伸ばし、親指でそつと大陰唇を押し開きました。ちよつと盛り上がった程度の小陰唇。綿棒1本通すのがやつとな腔口。こんなにかわいらしいところをさわられて、青葉、幸せです……。



放尿

「もうこのまんま出しちゃっていい?」言うが早いか、思いきり開脚し、今度は自分でアソコを開く望月ちゃん。「いい? おしっこするよー」ふしよわあ、と高角砲の対空砲火みたいに尿が吹きだしました。間近で見っていた青葉はモロかぶりですが、もちろんこの業界ではご褒美です。たっぷり二秒ほどかけて、望月ちゃんは排泄を終えました。

自慰

ダルい、めんどい、が口癖とは思えないほどの激しさで、乳首をつまみたて、陰裂に指を抜き、差ししつづつ喘ぐ望月ちゃん。「面倒……だから、さっさと終わらせ……たいんだよ……ッ」イク寸前、かすれ声で「弥生……ッ」と呟いたのを、青葉は聞き逃しませんでした。さっさと2人で百合えつちしちやいましょうよ。

吹雪型土四番艦

深雪

胸部装甲

吹雪ちゃんとサイズ的にはあんまり変わりません。つまり、ささやかながら膨らんでいるということですが。深雪ちゃん、冬のさなかに外で、上半身裸で乾布摩擦していたんですよね。長門さんも混じっていましたけど、どう見ても欲情していました。青葉？ 5回くらいオカズにしましたが何か。

下着姿

あー……この娘は。自覚はないけど近い将来、ものすごい美人に育つたイプですね。青葉、わかつちやいました。もう色々片鱗が見えてますし。無自覚な色気って怖いんですよ……。

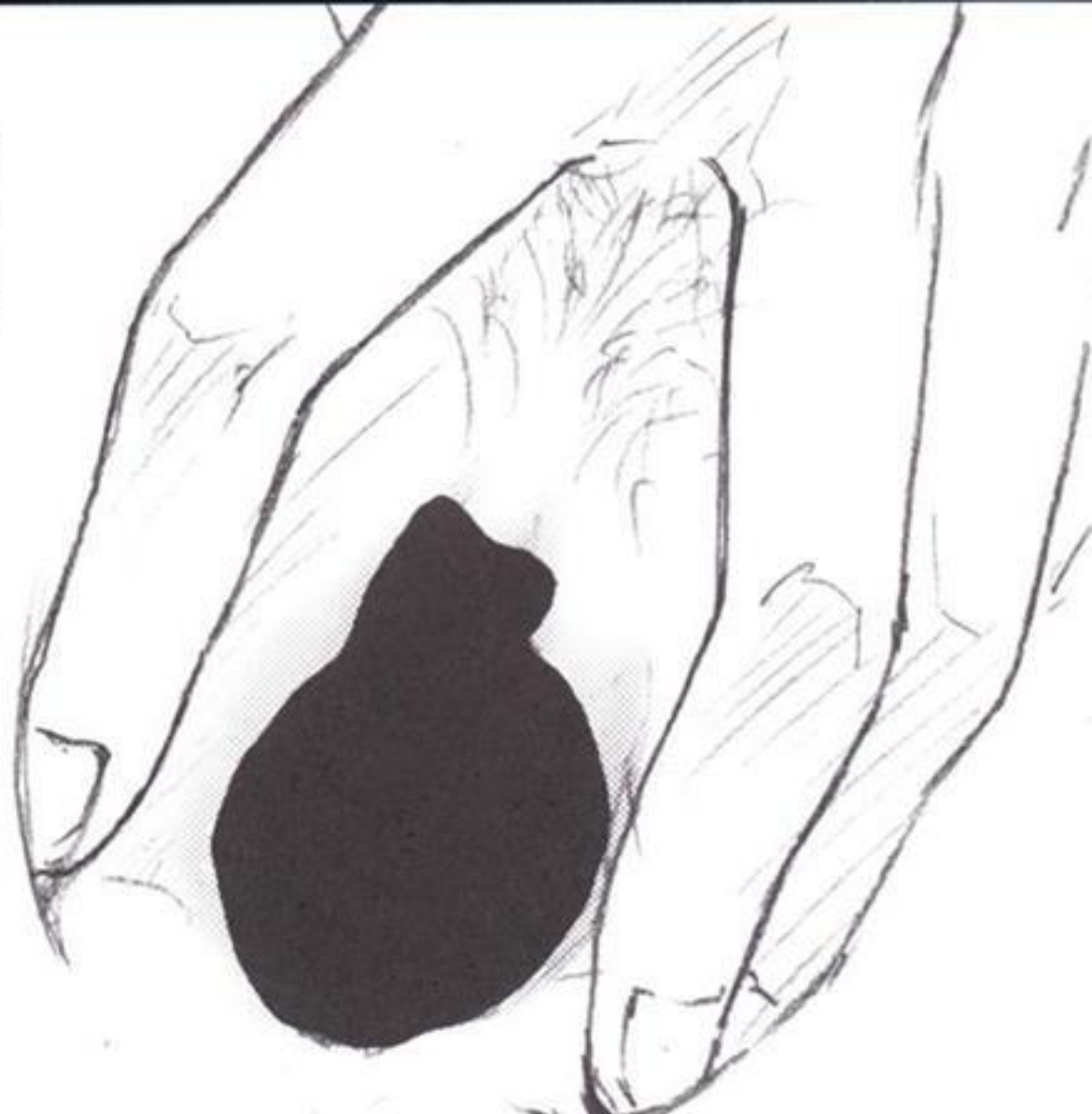
陰部

どっかかりと腰を下ろし、あぐらをかく深雪ちゃん。「初雪ほどじゃねえけど、一応毛、生えてるぜ！」みんな初雪ちゃんの陰毛を話題にしますね……！ いたいどんな塩梅なんでしょう。それにしても深雪ちゃん、不思議なほど楽しそうです。



性器

すでに小陰唇が顔を覗かせていたそこをぐにいと押し開くと、肉厚気味のヒダや陰核包皮が姿を見せました。それが、分泌液で濡れてテラテラと光っています。「こんなところ見たことねえなあ……なあ青葉さん、どれが何なのか教えてくれよ」「へあつ」青葉の即席保健体育が始まってしまいました。青葉のこと信用しすぎですよ……。「セツクス……なあ。イマイチ興味ねえけど、叢雲や、初雪とだったらしてもいいかな」



放尿

「玄関前に座ってしつこくするなんて、なんかもうやりたい放題だな!!」めちやくちや楽しいそうに笑いながら、ちやあああ……と薄黄色い放物線を描く深雪ちゃん。かわいいです。「あははは……ああ……」「えっ」気がつくくと深雪ちゃん、涙をぼろぼろこぼしてしまいました。「あ……ああ……ちくしょう、嬉しいよお……」



「あたしは、事故でわけもわかんねーうちに沈んじゃって……この姿になつて、そのあと何が起こつたか知って。電のヤツを恨んじやいねえよ、もちろん。むしろ、後ろめたかつたよ……あたしもみんなと一緒に戦いたかつた。それが、今ならできるんだ。むしろ、人間の身体もつて、あのころできなかったことがもうなんだってできる。こんなバカみてえなことだつて……なんか、『あたしはここにいてるぞ!』って世界じゅうに叫んでる気分です。そ、そしたら、死ぬほど、嬉しくなつてええ……」「うあああ、と素裸のまま声を上げて泣く深雪ちゃんを、青葉は抱きしめました。」

吹雪型九番艦 磯波

下着姿

「ヤベっ」思わず加古の口調が移ってしまいました。磯波ちゃんとはあんまり話したことないんです。たまに川内さんと一緒にいるのを見かけるくらいで。それで会いにいったら……キてます、キてます、キまくりやがってます、百合電波が。間違いありません。この娘、レズです。川内さんにぞっこん片想い中。

胸部装甲・陰部

吹雪型の末っ子ですが、おっぱいはちよっと大きめ。ですがそんなことは問題ではありません。「どうして川内さんなんですか？」と単刀直入に訊ねましたよ。なんでも、前世で川内さんに率いられて、南洋で戦ったりしたのだそう。幾度かの大きな修理のあとは護衛任務が中心だった彼女にとって、とても大切な思い出のようです。だって、あんな紅潮した頬と潤んだ瞳で語られました……。それに、「ごめんなさい……興奮して、汚してしまいました……」と俯きながらぱんつを下げたら、もうぐっしより濡れそぼってらてら光る陰毛から、むわっとな「女の匂い」が立ちのぼり、青葉もあてられてしまいです。



性器 ・ 放尿

正直、青葉もおかしくなっていた気がします。「ホラ、川内さんが磯波ちゃんのここに興味を持ったようですよ……」青葉がセンダイと発音しただけで、膣口がキュツとずぼまり、ごぶり、と愛液があふれ出る有様。「今は川内さんと……」いっしょに護衛任務申。川内さんがおしっこに誘って……すよ……今ここでし……かないと、帰港する前にもらしちやいますよ」「あ……あ……」磯波ちゃん、声を出すまいと必死に口元を押さえながら、しゃがみこんでちよろちよろと放尿。そして……



自慰

青葉の……いえ、今は「川内さん」の右腕をぎゅつと掴み、その指を膣口に激しく出し挿れさせながら、磯波ちゃんが息も絶え絶え、喘いでいます。これはあくまで磯波ちゃんのオナニー。青葉はただ、性具としてイマジナリー川内を務めているだけ。何も後ろめたいことはないんです。きつと振り向いてはもらえない、というだけで。

綾波型主二番艦 敷波

下着姿

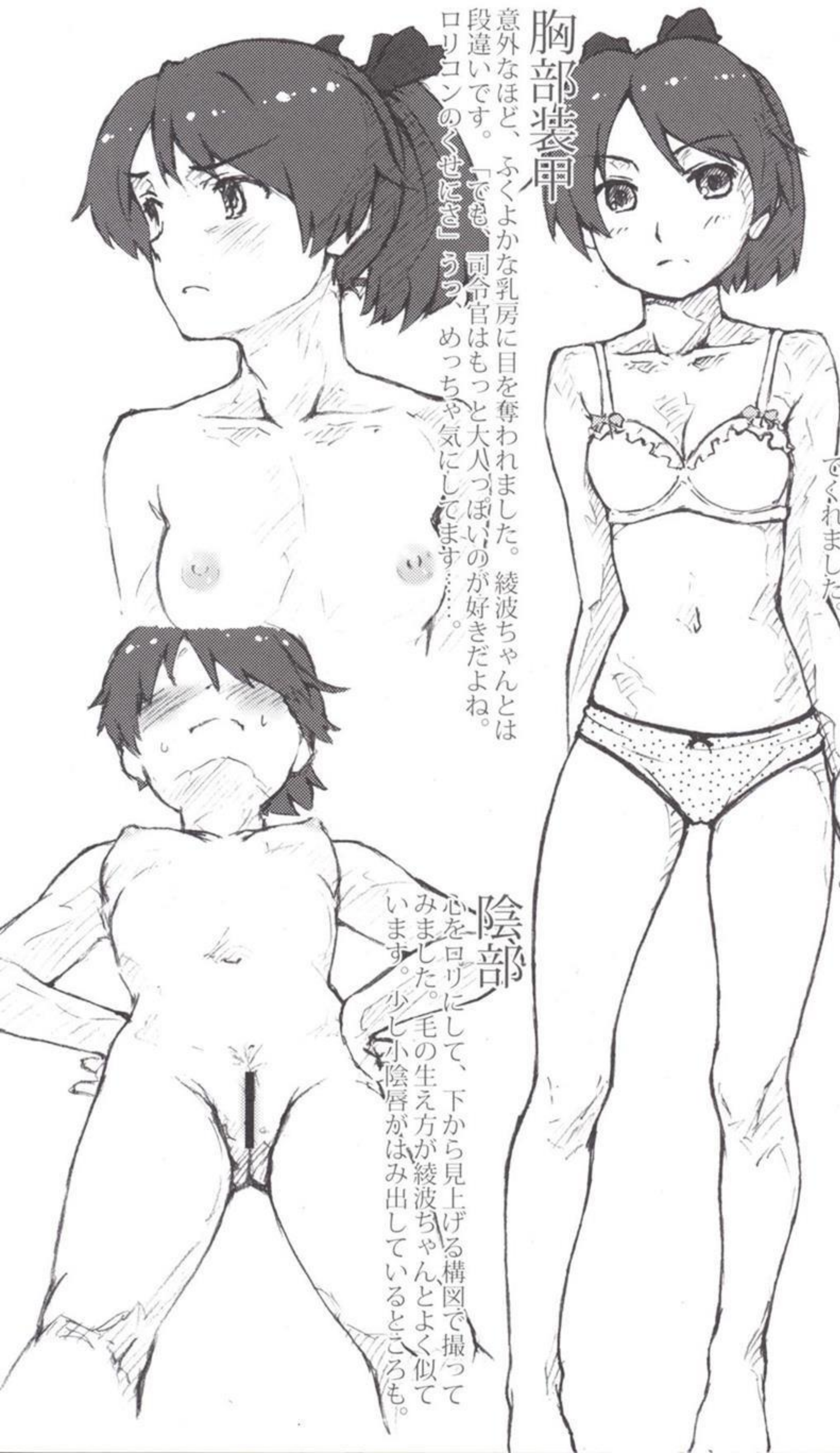
前回激しく乱れた綾波ちゃんと同室の彼女。会うのは少し気が引けました。嫌い、とかじゃないですよ。その……彼女が提督をどう思っているか知っていて、その上でなお、霧島さんとあんなことをして回っていたわけですから。今だってその続きのようなもので……けど、敷波ちゃんは普段どおりのデモンションで、「早くやっっちゃおうよ」と脱いでくれました。

胸部装甲

意外なほど、ふくよかな乳房に目を奪われました。綾波ちゃんとは段違いです。「でも、司令官はもっと大人っぽいのが好きだよ。ね。ロリコンのくせにさ」うっ、めっちゃ気にします……。

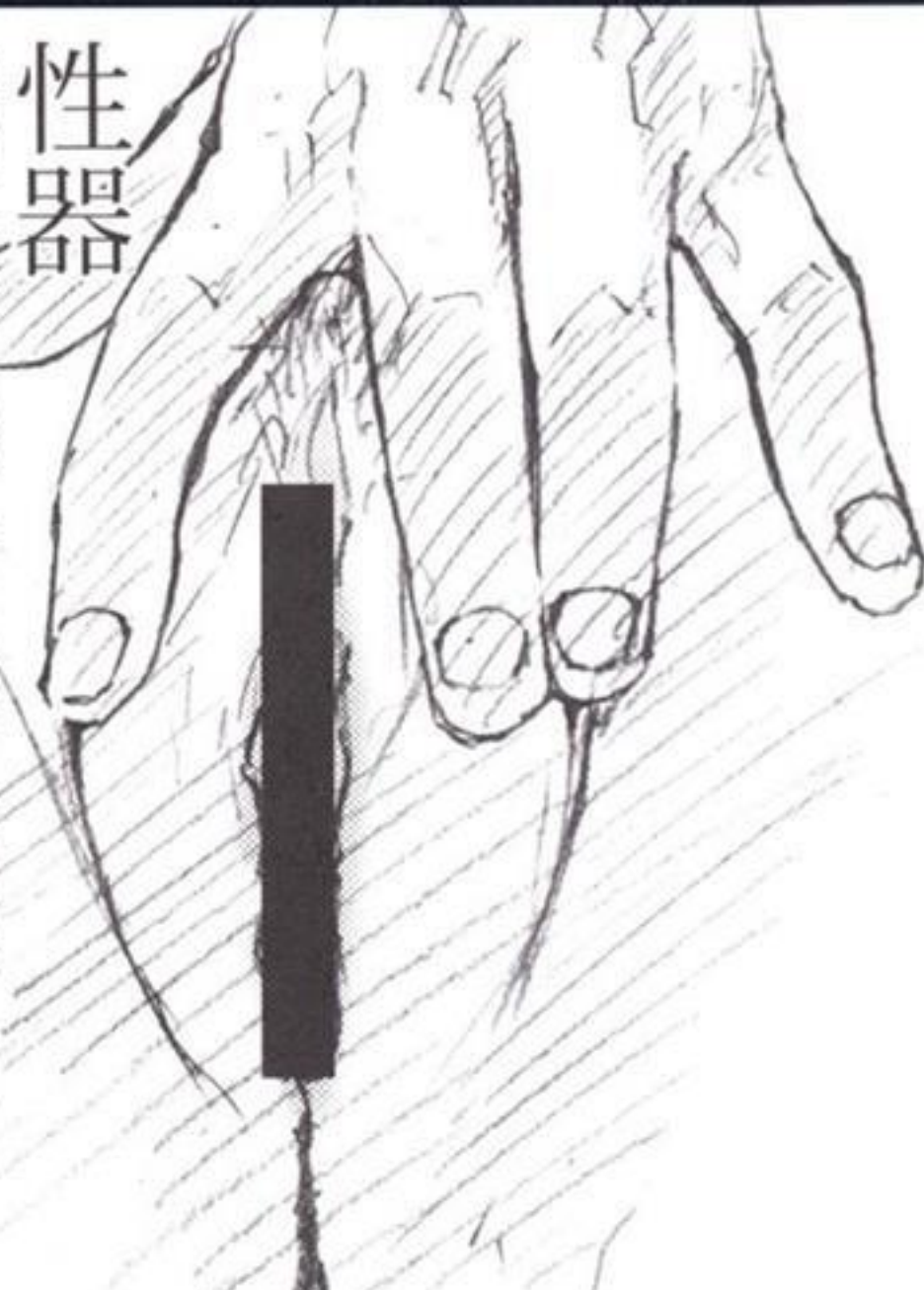
陰部

心を回りにして、下から見上げる構図で撮ってみました。毛の生え方が綾波ちゃんとよく似ています。少し小陰唇がはみ出しているところも。



性器

性器を広げるのはどうしても抵抗があるらしく（今思うと、霧島さんはどうしてああも簡単に言うことを聞かせられたのでしょうか？ カリスマ？）、思案した末、仁王立ちで青葉が下から覗きこむ体勢のまま少しだけ開いてもらおうことで妥結しました。これはこれでエロいですね。



放尿

お互い、なんだからカメラが進みま
ンが低いまま撮影が進みま
す。仁王立ちのままで後ろ
手にお尻をつかんで広げる
感じでお尻をシヨンしてら
いまして。「なんか……ノ
リ悪くて、ごめんね？」
しよるしよる。排尿しつ
敷波ちゃん。青葉は何も言
えません。そして。

自慰

「お願いがあるんだ、青葉さん」「はい」
「ひとりでするあいだ、抱きしめていて。それと……顔、見ないで。撮らないで。できれば……何も聞かなかったことにして」……はい「それから、敷波ちゃん
は青葉の腕のなかで、激しく自分を慰めました。顔は見えませんでした。表情の想像はつきまりました。何を口走っていたかは、一生、青葉と敷波ちゃんだけの秘密です。終わったあと、敷波ちゃんに言われませんでした。「青葉さんは……諦めちゃダメだよ。今はあたしのこと、オカズにしてもいいから、さ」



綾波型八番艦

曙

胸部装甲

駆逐艦娘のなかでも小柄な曙ちゃんなので、どこでもつつましい胸ですがほとぼしる殺気は戦艦レ級にもひけをとりません。「あの……堂々として、いますね」「派手に被弾したらモロ脱げなんてよくあることでしょうが。乳出るのがイヤで戦争できるかっての！」仰るとおりです……。

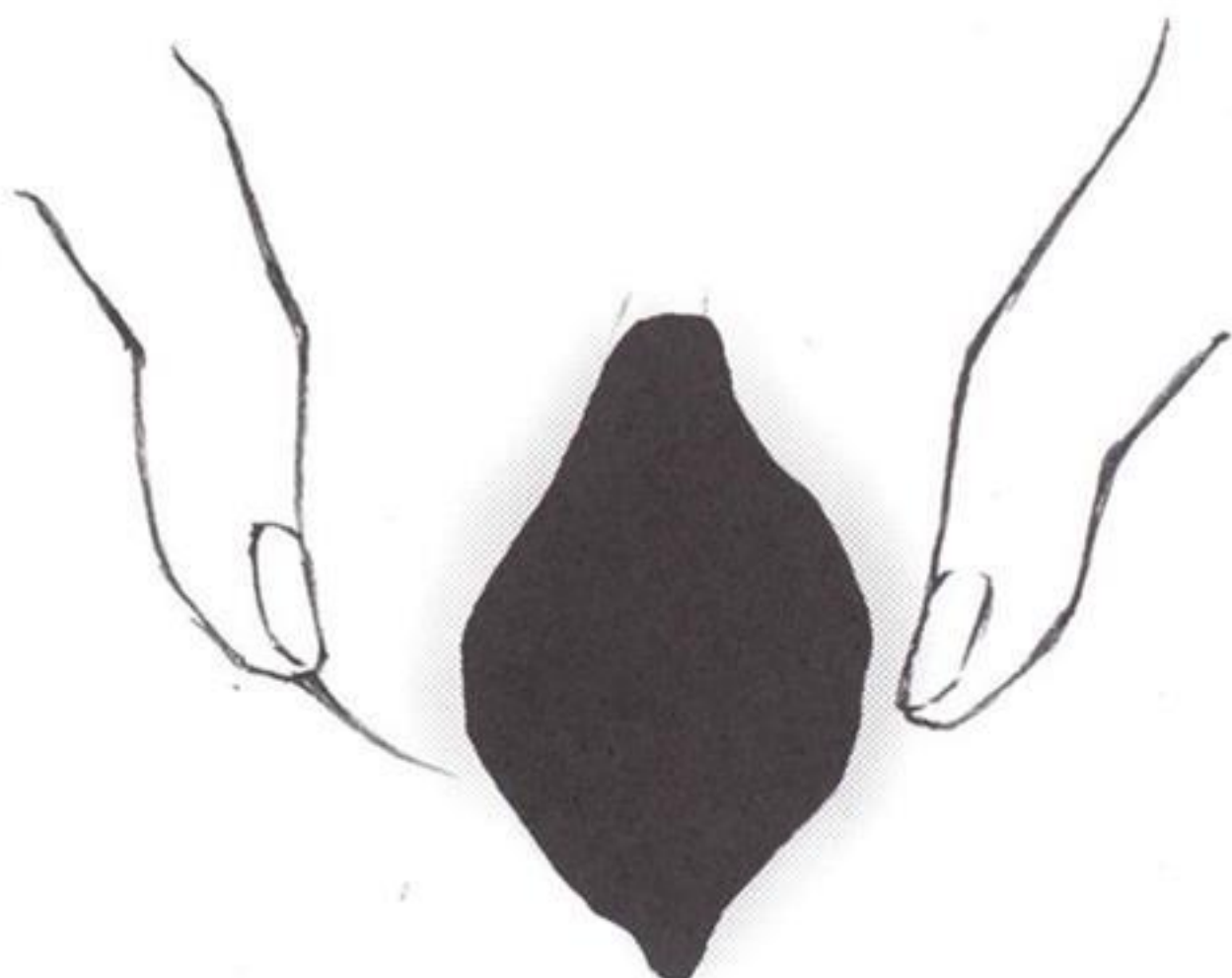
下着姿

「何ビビってんのよ。自分で脱がせておいて」棘だらけの声突き刺さります。うう、この娘苦手なんですすよね……。話相手になってくれる不知火ちゃんと違って、本当に怖いんだもの……。深海棲艦じゃなくて人殺してる目ですよお。」「アンタそれでも『ソロモンの狼』なの？」「このロリコンへタレズ！」

陰部

青葉のリクエストに答えて、外部装甲をつけた状態ではんつだけ脱いでもらいました。ロリコン的にけっこう興奮する絵のハズなのですが、鋭すぎる眼光のせいで、なんだが砲火の下でつかの間の休息をとる少女兵士のような風格です……。





放尿

「潮と漣がよく、連れシヨンするわね海で。あたし言ってるやつたわ。いつ敵が来るかもわからない状況でわざわざ時間作って用を足すのは愚の骨頂。航行しながら垂れ流せ、ってね。でも潮が泣いて嫌がるから、立ちシヨンで妥協したわよ。したんでしよう？ あの子」

ちよろちよろ……割れ目から流れ落ちる放物線といっしょに、幾筋も太ももを伝っていきます。……しばしの沈黙のあと、ポツリと曙ちゃんが漏らしました。「ごめん、正直に言う。潮といっしょに立ちシヨンしたかった。けっこう……興奮したわ」

性器

「何の冗談なのかしらね、ホント」親指で幼い大陰唇をくばあ、と押し広げながら曙ちゃん。「ご丁寧に子供まんこなんかつけるくらいなら、魚雷発射管のひとつも増設しろってのよ。誰がこんな身体拵えたか知らないけど、設計担当者に文句つけてやりたいわ。こんなもん、クソ提督やアンタみたいな変態どもの手慰みくらいにしかならないわよ」いや、青葉は別にセックスしたいわけでは……。ていうか、なんか、ちよつと濡れてきてませんか？「ただの分泌液よ」



自慰

「いろんな理由で……抜くんだと思う。戦闘で昂ぶった心身を落ち着かせるため。気持ちよくなりたから。ただの流れ作業。好きな相手とのセックスを妄想して。あたしは……自分が艦娘であることを、と、潮の姉であることを確認するため、かもしれない。この身体とあの兵器で、今度はあたしが潮を守る。守って、そして生きぬいてやるの。こうしていると……生きてるんだってわかる。もっと生きて、この快感を感じたいと思う。いつかは……潮の手でそうしてほしいとも。それでもまた戦えるんだとすれば、艦娘にまんこがあるのも悪くない……かもね」

雷 暁型三二番艦

下着姿

艦娘三日会わざれば云々なんて言いますが、雷ちゃん、しばらく見ないうちになんだかアンニュイな表情を漂わせるようになっていました。入渠上がりなんかぱんっ一枚で鎮守府内を走り回ったりしていたのにジュニアブラつけていますし、子供ばんっならぬ高そうなショーツまで……。これはスクープの匂い！



胸部装甲・陰部

「司令官もそろそろ雷離れすべきだと思ふのよね。私だって自分の幸せを追求したいわ」「は？」「青葉さん、若葉……って知ってる？」「若葉……ああ、駆逐艦の。なんか無口な子ですよね」「物静かかって言うの!!」「な、なんですすか急に!」「あのクールな大人の魅力がわからないのかしら？」「青葉さんも子供ね!」「し、失礼な!」すっぽんぽんのまま鬼怒さんのポーズで熱弁されましても……まあ、合点が行きました。

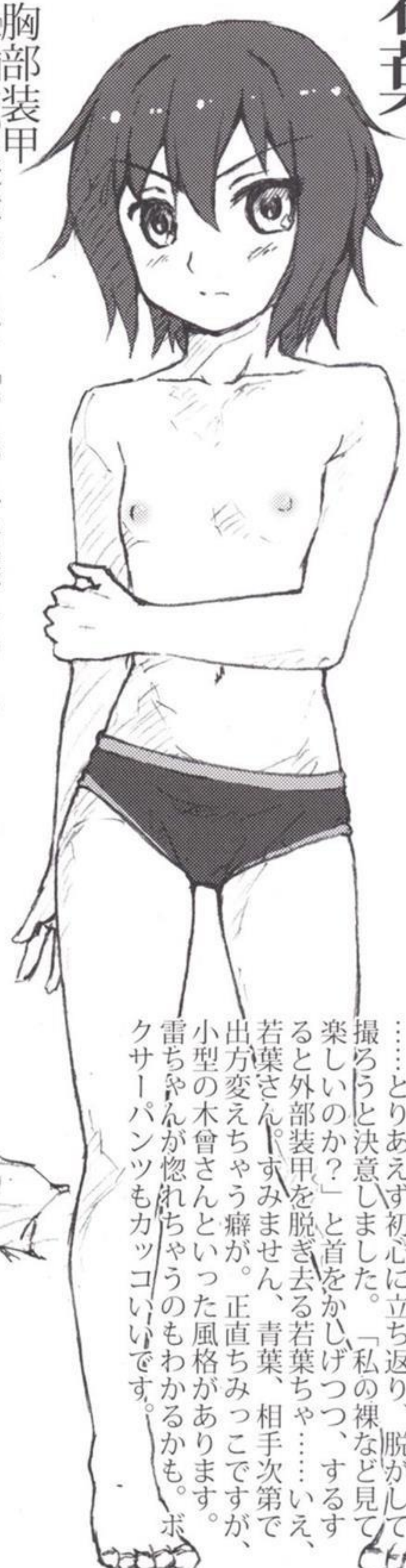


彼女の恋の話

「昔ね、若葉につつこんで迷惑かけたことがあるの。この姿になつてから、そのときのこ
と思つてたんだけど、なかなか言いだせなくて……そしたらこないだ、またぶつかつちゃっ
たのよ。出会い頭の話なんだけどね。『なんだ、またお前か』つて言われて思わず泣きそ
うになつちやつたけど、私の頭を撫でて言うのよ。『元気そうだよ。またよろしく』
つて！ もう！ もう！ カッコいいの！」雷ちゃん、憑かれたように語り続け
ます。「それからちよくちよく顔を合わせるようになって、彼女のこと、どんどん見えて
きたわ。駆逐艦としての誇り。自信。周囲への気配り……気がついたら、若葉で頭も心も
いっぱいになつてた。そして……身体も。見て」突然、お尻を突きだす恰好で秘裂をぐに
いっつと伝げる雷ちゃん、ちよ、ちよつとお!? 「雷ももう子供じゃないわ。若葉のことを思
うと、ここがこんなふうになることの意味くらい知ってる。……若葉に触られたらどうな
るだろうつて考えると、どんどん溢れてくる」そして2人に入ったトイレに腰かけ、「……
こんな恥ずかしいところを見てもらいたいとも思うの」だらだらと愛液をこぼしつつ、
尿。目の焦点が合っていない。うわあ……。

「うれしくて、たのしくて、こわいの。
若葉のことはいっぱいになりすぎて、
自分が自分でなくなっていくみたいで
……。青葉さん……。私……。どうしよう
うつぶせになつて自慰をしながら呻く
雷ちゃんは、ひどく苦しそうでした。
ううむ……。少し、心身のバランスを崩
してしまっているようです。過ぎたる
想いは文字通り、身を焦がします。少
し、手を貸してあげたほうがよさそう
ですわ……。

若葉



胸部装甲

「貧相なのは容赦してくれ」「いえいえ、青葉、そのくらいが好きですから。正直興奮してます」「物好きだな」「でも若葉さん、けっこうモテるのでは?」「そうなのか? 考えたこともない」あつ……ちよつとマズいかも。「えーと、そういう方面に興味ないとか?」「戦いとは関係ないからな。もし誰かに好意を持たれてるのなら、光栄だとは思うが」ふーむ……



下着姿

手助けとは言ったものの、一介のロリコン重巡洋艦にすぎない青葉に何ができるのか……とりあえず初心に立ち返り、脱がして撮ろうと決意しました。「私の裸など見て楽しいのか?」と首をかしげつつ、するすると外部装甲を脱ぎ去る若葉ちゃん……いえ、若葉さん、すみません、青葉、相手次第で出方変えちゃう癖が。正直ちみっこですが、小型の木曾さんといった風格があります。雷ちゃんも惚れちゃうのもわかるかも。ボクサーパンツもカッコいいです。

陰部

「あまりジロジロ見られると……照れる」少し頬に赤みが差しました。ただ単にクールなだけではないようです。割れ目まわりにはほんの少しだけ陰毛が。「かわいいですよ。見せたら興奮するかなあ」「ん? 誰にだ?」しまった!「……もしかして、私に好意を持っている特定の艦娘がいるのか?」



性器。放尿

「恥ずかしいですか？」 「……私に好意を持つ誰かがこれを見る可能性を考えると」

「青葉にオカズにされるぶんにはかまわない？」 「だってあなたは、私自身には興味がないだろう？」 「だったら深海棲艦の前で装甲が吹っ飛ぶのと変わらない」 「じ、地味にひどい……」 「お互いさまだ。それにしても誰だ、私などを好んでいるのは」 「ガタツ！」 「あッ……」 「い、雷!? あ、あ、あ、見ないでくれ!!」 「物陰から転がり出てきた雷ちゃんを目にして、たちまち涙目で真っ赤になる若葉さん。あ、これは……!?!」

彼女たちの恋の話

「雷には……見られなくなかった」 うつぶく若葉さん。
「でも……雷でよかった」 「え……？」 「雷に、そういう目で見てもらえるのは、恥ずかしいが……悪くない」 「それって……!」 「……」 「熱っぽい眼差しを雷ちゃんに向ける若葉さん。雷ちゃんの目がたちまち涙をたたえはじめました。やれやれ、このあと滅茶苦茶セックスした、と。」

初春型四番艦 初霜

下着姿

「青葉さん、ありがとうございます」ぽんつ一枚になった初霜さんに、いきなりお礼を言われてしまいました。「えっ、露出狂ですか?」「違いますっ!」その、姉と……若葉と雷さんのあいだを取り持っていたとこのことで「あー。って気づいてたんですか!」「雷さんの姉への態度を見れば、そりゃあ……でも姉はああいう人ですし、私もそういうことは疎いので、どうしようって思っていたんです」

胸部装甲・陰部

ぽよん、とした意外に大きな乳房。乳輪も大きめです。いっぽう下は毛も生えていなくてかわいい割れ目。容赦なく視姦しつつ訊ねます。「初霜さんにはそういうお相手はいないんですか?」「私は、今は戦いに集中しなければ……姉と違って不器用なので、気を散らしていたら命取りになっちゃいます」ふっ、とよぎる寂しげな表情。これは……片想いの影!



性器

「かわいい」広げられた幼い性器を前に、正直な感想をひとつ。「興奮します。舐めたいです。吸いつきたいです」「は、はあ……」「でも、しません。そういうことをしたいのは青葉じゃない、他の誰かでしょうから」「……！」頬を赤らめたまま、黙りこむ初霜ちゃん。

放尿・自慰

「はあ……」ちよろろろと排泄しつつ、初霜ちゃんはため息をつきました。ややあつて。「遠征中に用を足している、昔、駆逐隊にいたころのことを思い出します。みんな沈んでしまつて、私ひとり二水戦に編入されたんですけど……そこでずいぶん気遣われて、優しくしてもらつたものです」遠い目をする初霜ちゃん。はあ……当時の二水戦メンバーではなく、その旗艦である彼女のことですか。今では大和さんのそばに、従者みたいに寄り添う彼女。それは……「わかつていまず。私は、あの人の沈んだあと、乗っていた方々を助けることができませんでした。お2人のそばに最後までいて奮闘した駆逐艦。そう認識されているだけで十分なんです」そう言いつつも、想い人の名を呼びながら激しく自分を慰める姿は、哀しく綺麗でした。……最後に、言われました。「青葉さんは、大丈夫ですよ。……」だって、ちゃんと両思いなんですから」



白露型十番艦 涼風

下着姿

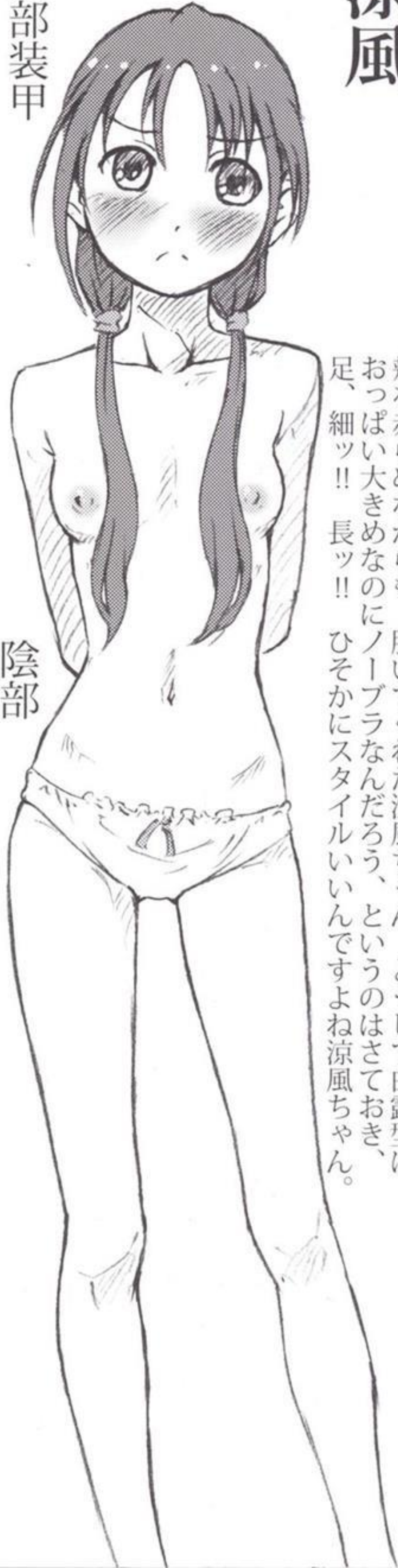
「姉ちゃんたちはみんなやったって……マジかよ。恥ずいなあ……」
頬を赤らめながらも、脱いでくれた涼風ちゃん。どうして白露型は
おっぱい大きめなのにノーブラなんだろう、というのはさておき、
足、細ツ!! 長ツ!! ひそかにスタイルいいんですよね涼風ちゃん。

胸部装甲

白露型では、白露ちゃん・夕立ちちゃんの次に
大きなおっぱい。ドックでたまに白露ちゃんが
が揉んでくるんだそうです。「最近、その、
先っちょが擦れて痛いんだよ。戦ってる最中
にさ……」白露ちゃんも同じことを言ってい
ましたね。やはり白露型の装備にブラを申請
しましょう。そっちのほうがエロいですし。

陰部

「うう……白露姉ちゃんといい、
なんでこんなところ見たがるん
だよお……」半泣きになりなが
ら、四つんばいになってお尻を
向け、少しだけ小陰唇の見える
秘裂を披露してくれました。五
月雨ちゃんが言っていたとおり、
わずかに生えはじめた陰毛がと
んでもなくそそります。そして、
ぽんっにはおしっこの染みが!



性器

「マジ信じらんねえ……青葉さんの変態……」涙声になりながら、くふ……と左側の大陰唇に指を添え、広げてくれました。幼い、まだピンク色で薄い小陰唇が、濡れててらてらと光っています。膣口からも、とろり……と白く濁った分泌液が。「一度だけ……白露姉ちゃん、見せあいつこしたことがあるんだ……。姉ちゃんの……あそここのほうがエロかった。でも、あたいのもエッチだねって言われて……なんか、ヘンな気分になっちゃまって……青葉さん、あたいも変態なのかな……？」「大丈夫ですよ。女の子が、そういうことをして興奮するのは全然普通です」

放尿

「お、おしっこするところ見せるなんて絶対ヤだ!!」
 「そこをなんとか! お姉さんたちもみんなしましたから!」
 「ヤだよ! どうしてもってんなら、青葉さんも一緒にしろよ!!」
 「いいですよ。一緒に、おしっこしましょう」
 「え……マジ……?」
 「かくして、青葉と涼風ちゃん、並んで立ちおしっこしました。」「この赤な顔で、茫然とつぶやく涼風ちゃん。2人ぶんの放尿音が響き、薄黄色の水溜まりができていきます。」



自慰

「青葉さんのせいで……あそこが……ムズムズするよお……」
 「くちゅ、くちゅつと、慣れていなさそうな手つきで秘裂をまさぐり、喘ぐ涼風ちゃん。」「姉ちゃんたちがしてるのは知ってた……。けど……これ、気持ち……いい……ツツ」
 「達するまで、2分もかかりませんでした。」



朝潮型二番艦 大潮

下着姿

「小さな体に大きな魚雷！」とよく言っているように、小柄な大潮ちゃん。でも、ちゃんとジュニアブラをつけているんですよ。朝潮型より一代前の白露型は、みんな朝潮型より成熟した身体つきなのにノーブラ。艦娘っていいわね、何なんでしょうね？ まあ青葉は、駆逐艦娘ちゃんたちでハアハアできればそれでいいのですが……。

胸部装甲

芸術的なまでに小さな、それでもわずかに膨らみはじめたロリっぽい。ああ、撫で回したいです。「満潮ちゃんがよく撫でてくれますよ！」な、な、なんですとお!!!

陰部

外部装甲を身につけた状態でスカートをまくり、ぱんつをずらして、綺麗な割れ目とほんのわずかに生えはじめた陰毛を見せる……といふのを、なんと大潮ちゃん自ら提案してききました。満潮ちゃんと、よくごういう「えっちごっこ」をずるといふ、戦慄の証言がッ!



性器

「これ、くぱあつて言うんですよね？」さらに恐るべき平然と口にしなから、まさに「くぱあ」と大陰唇を広げてみせる大潮ちゃん。大潮ちゃんは同様に、まだまだ腔口は小さく、小陰唇も存在がわかる程度なのですが……あの、満潮ちゃんは、いったいあなたに何を？」



放尿

「満潮ちゃんがいつも見たがるやりかたで、おしっこしますね……」頬を赤らめながら大潮ちゃん、ぽんつを脱いでトイレに腰かけると、おもむろにスカートをくわえてあそこをさらけだしました！そして、じよおとお……と勢いよく排尿。エロすぎます。青葉、思わず隣の個室に駆けこんで、2回抜いてしまいました……。おちんちんが生えていたらすごい量射精していたかもです。

自慰

「は……あ……満潮ちゃん……」ブラウスをはだけさせ、ささやかな膨らみを揉みしだきつつ、左手は小さなクリトリスをぎゅう、と刺激。時々きゅつと股間に力が入り、緩むと同時にちよろつと尿が吹きでました。「満潮ちゃん……また……飲んじやうのお……？」トドメにこの発言ですよ！満潮ちゃん……これは、根掘り葉掘り腔掘り聞く必要があります。



朝潮型三番艦

満潮

下着姿

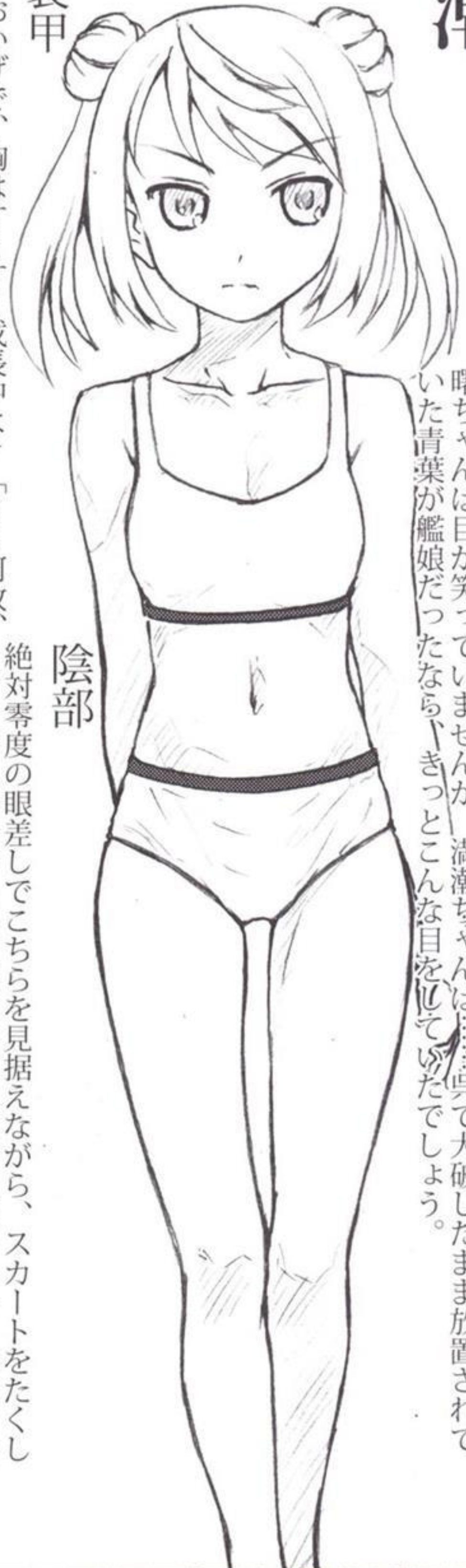
「たしかに、私は大潮とセックスしているわ」満潮ちゃん、あっさり答えました。
 うわあ……なんか、改めてお話ししてみると、ヤバげな雰囲気を漂わせまくりです。
 曙ちゃんは目が笑っていませんが、満潮ちゃんは、ははは、呉で大破したまま放置されて
 いた青葉が艦娘だったなら、きつとこんな目をしていただでしょう。

胸部装甲

「大潮のおかげで、胸はすくすく成長中よ」「……何故、
 なんです？」「あなたにならわかるんじゃない？ 自分
 の与り知らないところで、姉妹を失うってどんな気持ち
 なのか」「……………」「……責めるつもりはないわ。と
 にかく、こうしてまた出会えたんだもの。もう二度と、
 あの子を失わない。あの子の、すべてを手に入れたい」

陰部

絶対零度の眼差しでこちらを見据えながら、スカートをたくし
 上げてぱんつを下ろし、無毛の割れ目を見せるというのは、な
 かなかシユールな光景です。……………ん？ よく見ると剃り跡が。
 「大潮に剃らせているわ。毛なんか、一生要らない」アツハイ。



性器・放尿

「……そうね。私は壊れているのかもしれない。あんな純真な子を汚して、罪悪感と快感が同時にくるんだものでも、多かれ少なかれ、昔あれだけの地獄を見てきた艦娘はどこかしら『コワレモノ』なんじゃないの？ あの子だって、唯々諾々と私の言うことを聞いている時点でマトモじゃないわ」 「……自分を慕っている、自分も好んでいる相手そんなふうに言うのはどうかと」 「自分を嫌いすぎて、好いている相手に何も言い出せない人に言われたくないわね」 「……!!」 「……私が言えた義理じゃないけど、いつまでもこんなことをしていても埒があかないわよ。今すぐどうこうしろ」とは言わないけど。せいぜい私のおまんことおしっこをオカズにするというわ。……んっ、おしっこ出す……。わよ」



自慰……もとい、性交

正直、青葉は逆切れしかけていました。が、「やるわ。そこで見てなさい」と宣言した満潮ちゃんと呼ばれてやってきた大潮ちゃんのセックスを見て、気持ちがおさまりました。余裕など欠片もないようすで、もう二度と離れたくないとばかりに大潮ちゃんにしがみつき、声を押して殺して快感に打ち震える満潮ちゃん……どうやら、だいたいぶ力シだったようです。少なくとも根っこにあるのは、大潮ちゃんに対する一途な、激しい想いであるように見えませんでした。羨ましいです。でも、青葉にその資格は――



陽炎型三番艦 黒潮

下着姿

「ウチの裸が撮りたいやなんて、ウチも捨てたもんやないなあ」軽いノリで応じてくれた黒潮ちゃん。満潮ちゃんとのやりとりで千々に乱れていた心がだいぶ癒されました。それにしてもさすが陽炎型、他の駆逐艦娘たちより明らかに身体つきが成長していますね。水玉模様のスポブラとぱんつも可愛いです。あ……不知火さんは、まあ。

30

胸部装甲

「んもお、あんまりジロジロ見るといてえなー、恥ずかしいなあ」おっぱいはかたちも大きさも、陽炎ちゃんによく似ています。つくづく、不知火さん……どうしてそうなったんですか……。

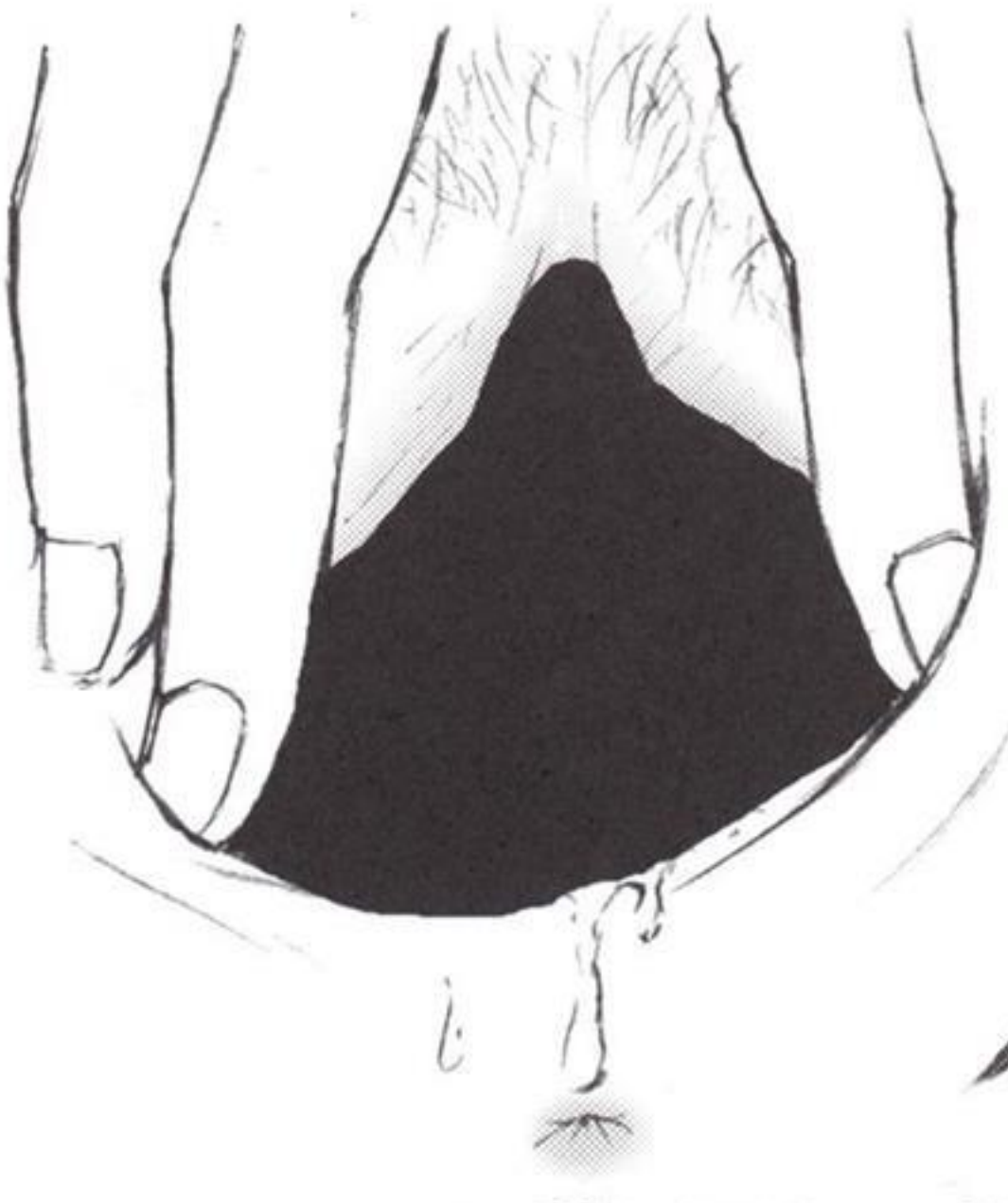
陰部

「おおー……なんや、本格的にエロDVDじみてきたなあ」赤面しつつ、後ろ手をついて少し開脚してくれました。割れ目の上のほうは、だいぶ陰毛で覆われはじめています。ビバ第二次性徴。



性器

「うわあ……これアカンやつやん。ホンマモンのエロDVDやん。ウチのオメコ見たってや、とか言えばええのん？」も、ものすごく恥ずかしそうに。しかしノリノリで陰裂をぐにいつ……と広げる黒潮ちゃん。けっこう楽しんでます？ 広げたとたん、とろり……と愛液がこぼれました。



放尿

「アカン……こらアカンでえ……」涙目になり、首から上を真っ赤に染めながらも、明らかに興奮を抑えきれないようすでしゃがみおしっこ。「ウチ……おしっこ、けっこう好きかも……陽炎姉やんといっしなにしたとき、実は……ドキドキしてん。姉やんのオメコから出るおしっこ見とって……」



自慰

「あ……あ……姉やん……」黒潮ちゃん、壁に手をついて、少しかがんだ恰好になり、激しく膣内をかき回しています。ぐちゅ、ぐちゅと淫猥な水音が響き、床にはポタポタと雫が……ていつか、ここでもまた泥沼の恋愛模様ですか。「ちやうねん……陽炎姉やんと不知火が仲ええのはウチも嬉しいんよ……ただ、ウチが勝手に陽炎姉やんでヤラしいこと考えて、ヤラしいことしとるだけなんや……あ、あ、アカン、イツ……く……」

——それを、泥沼つて言うんです。



陽炎型七番艦 初風

下着姿

「……変態。妙高姉さんに言いつけてやる」「いやそれが……妙高さんに焼き増しをお願いされてるんですよ」「ええっ!?」「青葉もビツクリしたんですが、妙高さん、案外、初風さんにご執心らしいんですよ」「そ……そうなんだ。し、仕方ないわね、妙高姉さんのためなら。脱いであげるわよ!」

胸部装甲

お姉さんたちちほどではないとはいえ、陽炎型だけあってそこその胸の膨らみ。なのに、ノーブラなんですよね。「……今度、妙高姉さんと一緒に買いにいって約束してるの」

陰部

「ね……ねえ。これって、妙高姉さんのリクエストなの?」スカートだけ脱ぎ去り、ぱんつを下ろした状態で、真っ赤になつた初風さんが蚊の泣くような声で訊いてきました。まだ無毛のかわいらしい割れ目をガン見しつつ、青葉は答えました。「いえ、青葉の趣味です」「……変態! ド変態! 変態重巡!」





性器

「うう……こんなところ
妙高姉さんに見せるなん
て……恥ずかしすぎて轟
沈しそうだわ……」弾薬
庫に火が回ったかのように
に真っ赤な顔で、涙目に
なりつつも、思いつきり
「くぱあ」する初風さん。
お姉さんたちに比べると、
小陰唇もクリトリスもま
だまだ小さく、幼いです。
でも、かなり興奮してい
るらしく、トロトロと愛
液があふれ出てきます。
これは妙高さんも大興奮
でしょうね。

放尿

はあっ……はあっ……
と呼吸を荒げつつ、丸
出しの性器を広げて立
ちおしっこ。ふしやあ
あ、とかなりの勢い
で前へ飛んでいきます
が、興奮すると男性の
射精と同じように、お
しっこの飛距離も伸び
るのでしょいか？ そ
れなりに長い時間かけ
て排尿を終えた初風さ
んは、もうすっかりで
きあがっていました。

自慰

「あ、あッ、妙高姉さん、
ダメえ……そんなの、壊
れちゃ……うウ」あらぬ
ことを口走りつつ、すご
い勢いで膣内をかき回す
初風さん。5回くらいは
イッたと思います。妙高
さん、はやく抱いてあげ
たほうがいいのでは……。

陽炎型九番艦 天津風



胸部装甲・陰部

「な、なによ、小さいって言うの」とおっぱい(またしてもノーブラ……)を晒しつづ回を尖らせる姿は、青葉の心の前立腺にキマシた。そして下腹部には、かなり生え揃った陰毛と、色づいた小陰唇のはみだす大人びたアレ(霧島さんとは違っで、あの四文字言葉は回にできないヘタレです……)が、もう真つ赤になつて涙目で睨んでくるものですから、青葉は、青葉は。

下着姿

ごく最近やつてきた、島風ちゃんや雪風ちゃんと縁のあつた子。いきなり突撃して脱がせる青葉も大概ですが、前述の2人がノリノリで応じたことを話すと渋々了承してくれました。いや、これは撮らないわけにはいきません。陽炎ちゃんにひけをとらない美少女っぷり！ しかも黒の紐パンですよ。体温高めで、常時頬を上気させていますし。



恋してるだとか、好きだとか

ええと……この状況をどう説明すればよいのやら。島風ちゃんと雪風ちゃんが押しかけてきたと思ったら、くんずほぐれつもの3Pが眼前で始まってしまいました。「何なのよ!!」2人がかりで性を広げられ、半泣きになった天津風ちゃんがわめきます。「アンタたちがもうデキてるって聞いたから! だから諦めようとしていたのに!! あたしを騙ってそんなに楽しいの!」ふむ?「違うよ、天津風」天津風ちゃんのクリトリスと膣を同時に責め、耳たぶを舐めながら、島風ちゃんが思いのほか低い声で囁きます。「2人で、決めてたの。天津風が来たら、いっぱい、一緒に気持ちいいことしようって。お付きあいするのは、必ず2人ひと組なんて、規則で決まってるわけじゃない。ううん、たとえ決まっても、好きだって、エッチしたいって気持ちの前には、そんなの無意味」「そんな……そんなこと言われたら……あたし……」「好きだよ。天津風」「雪風も……天津風ちゃん、大好き」「ふああああ!!!」失禁しながら、天津風ちゃんは果てました。始まったばかりの、彼女たちのポリアモリー、上手くいくといいな。

……ふう。大量大量。今日はここまでにしときますか。

自室へ戻った青葉に、ベッドの上の衣笠がじつとり湿った目を向けます。

「……いつまで、そんなこと続けるの」

「……今更説教？」

「別に青葉がロリコンでもおしっこ好きでも、文句つけるつもりはないわよ。まあ、やってることはどうかと思うけど……そうじゃなくて」

ひと息入れると、衣笠は改めて青葉を睨みつけ、

「古鷹姉さんの手も握れないからって、いつまでそんな情けない代償行為続けんのかって訊いてんの」

バン！

青葉の投げつけた筆立てが、衣笠の5センチ隣に着弾しました。

「何よ、逆ギレ？」

「それ以上言ってみなさいよ。次は当ててやる」

妹の前なら青葉の口調もこんなものです。衣笠の目に、見る見る涙が溜まりました。

「情けないっいたらありやあしない！　いつまでウジウジ過去をほじくり返して今を諦めてんのよ！　両想いのくせに！」

「衣笠に何がわかるってのよ！」

青葉もいつの間にか泣いていました。

「どうしたら……どうしたらいいの……」

衣笠、ぐいっと涙を拭くと、青葉を見据えて宣言しました。

「衣笠さんに、任せなさい」

おしっこれくしょん 駆逐艦編 弐
Combined Fleet Girls Collection FAN BOOK Vol.02

発行日 2014年05月25日
第2刷 2014年12月29日

発行サークル LUNATIC PROPHET
web <http://circle.lunaticprophet.org/>
pixiv id=92903

発行人 有村悠 Yuu Arimura
e-mail edgeoftheseason@gmail.com
twitter id=@y_arim

印刷所 株式会社サングループ
web <http://www.sungroup.co.jp/>

PRODUCED BY LUNATIC PROPHET



ども、恐縮です、青葉ですう！
一脱ぎお願いいたします！

2014.05.25.